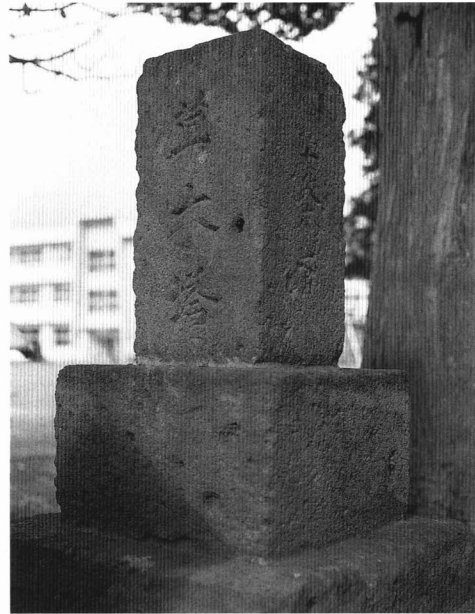


村指定文化財



草木塔

(昭和五十八年三月十九日指定 記念物 史跡)

塔は熱塩小学校校庭南東にあり、安政六年(一八五九)六月に建立された凝灰岩の角柱石である。

碑は、伐採された樹木の霊を慰めようと赤崎の木こり甚三郎という人が建立したものと伝えられ、草木塔という石碑は全国にもめずらしく、その発祥は山形県置賜地方で、一番最古のものは安永九年(一七八〇)の「草木供養塔」である。県内では一基のみの貴重なものであり、当時の民間信仰を知る上に大切なものである。

白山神社拝殿の向拝

(昭和五十八年三月十九日指定 有形文化財建造物)

上野集落の鎮守で北向に鎮座、祭神は石川県白山の白山比咩神社より分祀勧請されたものといわれている。

向拝は、檜材の木目美しい浮彫向拝である。二本の向拝柱の上に頭貫が通っており、それには中央部分に長寿を表わす亀をあしらった菊水の文様、両端は羽を広げた瑞鳥の彫物、その先端は木鼻で龍頭の渦卷文様である。

前面に出ている掛鼻は渦卷文様で、内側は左右共に上は瑞鳥、横にア・ウンの龍、中は内ぐりになっており亀の彫刻、外側は同じく上に瑞鳥、中の内ぐりには瑞鳥と威勢を表わす鯉の彫刻である。

頭貫と上桁との間には力を支える暮股があり、前面は瑞雲の上に飛馬、飛龍を表わす麒麟の雄壮な彫刻さらに虹梁、斗拱など一体となった浮彫向拝は見事であり、神社建築、美術彫刻の面から貴重である。

